

## TRUMPET

## ワンポイント・アドバイス

## I 行進曲「煌めきの朝」

作曲：牧野圭吾

全体的に三和音で演奏する部分が多いので、ハーモニーを合わせて演奏できるよう練習しましょう。ピッチだけでなく音色を合わせることも大切です。息のスピードが揃うとハーモニーに一体感が出てくるので、パート練習で日々意識しながら取り組んでみてください。

テンポは♩ = 134程度と速めなので十六分音符はダブルタンギングで吹くほうが音の粒がはっきり聞こえやすいと思います。

61小節目からのベルトーンは、バランスよく聞こえるように意識してください。【L】からはトランペットのハーモニーが主旋律を担当しますが、メインのメロディはトランペット1stのみです。他のパートの様々な動きに埋もれないよう、合奏での音量のバランスに注意しましょう。

【L】の音量は173小節目からf、189小節目からffになります。音量の変化も意識しながら演奏しないと、途中でスタミナ切れを起こしてしまいます。力まず遠くに向かって音を届けるイメージで、演奏するよう心がけて練習しましょう。

## II ポロネーズとアリア ~吹奏楽のために~

作曲：宮下 秀樹

音域が低い部分が多々あります。特に3rdはAやC、43小節目など低音のタンギングの部分は、息をしっかりと使って吹くこと。音の出だしが遅れないよう、音の立ち上がりも意識して練習してみましよう。

タンギングがうまくいかない場合、まずは安定して吹けるよう、低音域のロングトーンも普段の練習に少し取り入れてみるといいと思います。

裏拍から始まるフレーズも多いので、出遅れないように裏拍を感じながら演奏しましょう。音の出だしが遅れがちになる場合はブレスのタイミングを早めにするなど工夫してみてください。

【G】からは、トランペットとトロンボーン4パートのアンサンブルになります。ハーモニー、音色、音量のバランスに気を配ってよく練習しましょう。94小節目のベルトーンでは、特に1stと2ndは十六分音符から始まるのではっきり吹くよう心がけてください。

メロディの部分は、3パートがユニゾンになることが多いです。ピッチ、アーティキュレーション、音の処理など細かいところもしっかり合わせて演奏できるようパートでよく練習しましょう。

## TRUMPET

## ワンポイント・アドバイス

## Ⅲ レトロ

作曲：天野正道

アクセント、テヌートなどのアーティキュレーションは、最小限しか書かれていませんが曲のイメージや表現したいことのために、どのような「音の長さ」「形」「強さ」で吹くか、よく考えて演奏してほしいと思います。装飾音符やグリッサンドははっきり聞こえるよう、息をしっかり入れて吹くことを意識しましょう。

【E】のソロの「with feel」については、フェイク演奏にしてもフェイクせず楽譜通りの演奏でも構わないと、作曲家も説明しているため（詳しくは全日本吹奏楽連盟のホームページで確認できます）様々な吹き方を試して、納得のいく表現を見つけてほしいです。次のアルトサックスのメロディと似た感じにするか、違う表現にして対比を付けるかなど、いろいろ試してみてください。

【G】からは、裏拍から始まる動きが多いので、乗り遅れないようにメトロノームを使ってよく練習しましょう。

## Ⅳ マーチ「ペガサスの夢」

作曲：水口 透

8分の6拍子のマーチで裏拍から始まる動きが多いです。縦がずれやすいので、メトロノームに合わせてしっかり練習しましょう。タイの部分も次に動き出すところのタイミングが合わせにくいので、タイをとって拍子をしっかり意識しながら練習してみてください。

【B】からのメロディは、アーティキュレーションに注意して演奏しましょう。スラーがどこまでかを確認し、楽譜通りに演奏することをしっかり意識してください。勝手にスラーを付けてないかなど、テンポを落として練習して確認しましょう。【D】も同様で、どこまでがスラーになっているかを確認してみてください。

1stと2ndや3rdがオクターブになる部分があるので、お互いによく聞きあってピッチを合わせて演奏できるよう練習しましょう。